

～使命の追求～

2014年11月10日発行 11月号 No. 237

◇国土交通省関東運輸局

東京運輸支局長 星野 朗

◇「局等との勉強会」

副本部長・総務委員長

下川 悟〔中央支部 (株)プライム物流〕

国土交通省関東運輸局東京運輸支局長の星野です。

平素より東京都トラック協会ロジスティクス研究会の皆様には、私ども東京運輸支局の業務各般にわたりご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

松本本部長をはじめ、ロジスティクス研究会の皆様方におかれましては、日頃より「安全・安心」で良質なサービスにより、国民生活に欠かすことのできない物資の安定輸送の提供にご尽力いただいております。感謝申し上げます。

また、青年部・女性部との合同セミナーのほか、各種セミナーやフォーラムなどの研修活動による人材育成にも努めていただいておりますことに対しましても、深く敬意を表する次第です。

トラック運送事業を取り巻く状況は、輸送需要が伸び悩む中、円安等による燃料・軽油の高騰が続いており、経営が圧迫されるという大変厳しい状況が続いています。

更には、人口の減少・少子高齢化に伴う運転者不足や安全・環境問題への対応等課題が山積している状況ですが、松本本部長の強力かつ卓越したリーダーシップの下、会員一丸となってこの荒波を乗り越えていただけると確信しております。

先般開催された関東運輸局との勉強会では運転免許制度やGマーク制度等について、熱心な（熱い）意見交換をさせていただき、貴重なご意見を伺うことができました。

東京運輸支局といたしましても、最前線の地域行政機関として、トラック運送事業が健全に発展するよう、これからも業界の頭脳であり心臓部でもあるロジスティクス研究会の活動を支援させて頂くと共に連携し漢方処方的な対応を行って行きたいと考えております。

今後ともよろしく願いいたします。

◇「大高会長との意見交換」

副本部長・物流政策委員長

大島 弥一〔新宿支部 大島運輸(株)〕

10月22日(水)の正午より、東京都トラック総合会館2階役員室にて『大高会長との意見交換会(ロジ研第2回物流政策委員会)』が開催されました。

話の内容としましては、トラック協会の存在価値から始まり、昨今の駐車問題、最終的には水素エネルギーについて勉強してくれという要望までありました。割と頭を使うことなく生きてきた参加メンバーでしたので、今後はうまく青年部に協力してもらい・・・という事で、留まる事を知らないマシンガントークで時間もオーバーしてしまいましたが、あっという間の100分間でした！

先般、10月22日(水)に全ト協会館3階にて、ロジ研の継続事業である関東運輸局・東京運輸支局との勉強会が開催され、我がロジ研の各委員長及び執行部が出席し、現状の運輸業界事情や運輸行政について意見を交わし、今後の運輸業界の行く末について立場を超えた討論を交わしました。さらに全ト協永嶋審議役にも参加していただき、免許制度の見直し等も勉強いたしました。

その後、意見交換で、どれ位、実になった勉強会だったかを互いに確認し、資料説明では言い難い事なども多数有ったかと思いますが、具体論が色々出て、お互いの立場ではありますが、如何に歩み寄り解決するかの糸口を模索している様に感じました。



〔左から、関根氏、星野氏、奈良氏、齋藤氏、柳瀬氏〕

また、10月28日(火)には全ト協会館6階にて、国土交通省自動車局貨物課の方による書面化についてのヒアリングに対応し、全ト協企画部の方も同席され、当ロジ研より2名が出席し意見を交わしました。

書面化は各事業者の受けとめ方に随分違いが有る事が分かり、まずは書面化推進するに当たり、在り方や具体的にどの様に実行するかについて意見を交わしました。

国土交通省もまずは基本契約の締結をして、単発・スポットの取引については書面にて行って頂きたいとの考えの様ですが、書面内容については、荷主名・積地卸地・名称・車種・運賃・付帯作業の有無・有料道路費用・距離・所要時間・サーチャージ他などを明記が出来れば良いとの事でした。ただし、書面の保存期間については下請法の絡みが有り1年間で短縮する事は難しいとの回答でした。

国土交通省の方に「書面化の目的は何ですか」と聞きますと、「事業者の適正運賃収受です。」と言われました、私は「何か基準が欲しいですね、各都道府県もしくは市町村間の輸送距離で運賃のバラつきが抑制出来るのでは」と問いましたが、難しいような感じでした。書面化は避けて通れないので有れば、我々事業者にメリットが有る書面化にして欲しい事を強く要望して終わりました。

皆さんはどの様に考えますか。

◇「(一社)愛知県トラック協会主催『トラックと交通安全・環境フェア』に参加して」

副本部長・広報副委員長
武井 一憲〔文京支部 (有) 武井物流〕

10月5日(日)に(一社)愛知県トラック協会が主催をしている『第10回トラックと交通・環境フェア ふれあいトラックフェスタ2014』に、東ト協の事故防止大会の今後を考える検討委員会の一員として、視察会に参加させていただきました。

開催地はサッカーチームの名古屋グランパスエイトがホームにしている豊田スタジアムで、当日はあいにくの雨でしたが、スタジアム内の通路と観客席、また雨でも影響がないものについては、スタジアム外のスペースを利用して、様々なアトラクションやイベント、展示などを行ってまいりました。

アトラクション等については、交通ルールや交通安全を知ってもらうゲームや、エコバックやキーホルダーへのお絵描きやぬり絵、運転シミュレーターなど、主に子供たちが楽しめ、興味を持てるような内容のものが多くありました。もちろん、トラックの死角体験コーナーや、いろいろな種類の働くトラックの展示、面白いところでは、世界のナンバープレートの展示などもありました。

中でも私が一番興味を持ちましたのは、子供たちに運送体験をしてもらう「はたらくトラック・ドライブゲーム」です。ペダルカーとそれに連結をするカーゴ車を使用して、実際に「運送依頼書」をもらい、食品工場か農家に向かい、運送依頼書に記載してある荷物を積み込みます。ショッピングセンターに行き、荷物を納品してハンコをもらう。私たちが業務で行っていることを、遊びを通じてこれからの未来を担う子供たちや、その親に知ってもらうこの体験ゲームが、今回視察させていただいた中で、一番印象に残る内容のアトラクションでした。



〔会場内の様子〕

愛ト協青年部会部会長で本フェスタ実行委員の恒川氏の説明では、他にも、大学生にアルバイトをお願いしたり、美術系の専門学生にイベントに来場した方の似顔絵を無料で書いてあげたりなど、若い世代の人たちにもスタッフとして参加していただき、この業界を知ってもらうという試みもしているとのことでした。

この愛知県トラック協会が開催しているフェスタは10回目ですが、初めは名古屋市内で開催をしていて、もう少し規模が小さかったそうです。開催回数を重ねるごとに行政や地元の有力企業の協賛を得られるようになり、大きな施設での開催へと変わっていったとのことでした。

イベント会社を利用して開催しているフェスタですが、様々な苦勞もあると説明を聞く中で感じました。ただそれよりも、『自分たちの事をこのフェスタを通じていろいろな方に知ってもらいたい』『様々なアトラクションなどを見ていて交通安全や環境というアイテムを使用して、県民の方たちに我々業界の事に興味を持ってもらいたい』という願いがあることをすごく感じました。

願わくはこの東京でも、都民の方たちに我々業界の事を知ってもらい、興味を持ってもらう一つのツールとして、このようなトラックフェスタが開催できればと思いました。



◇スケジュール《○ロジ研行事予定》

- 11/14(金) 14:00～正副本部長会議(東ト4階)
- 16:00～第2回オフ・セミナー(全ト3階)
- 18:00～同 交流会(東ト4階)
- 11/21(金)～24(月) 温故創新セミナー・海外視察
- 11/26(水) 16:00～本部連絡会(東ト4階)
- 12/16(火) 17:00～正副本部長・幹事会合同会議・調整中
- 18:00～ロジ研忘年会(銀座アスター御茶ノ水)



〔ドライブゲーム〕